

ア 児童の 状況	きわめて良好	自己評価Bの 評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 自主的・自律的な生活

評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期	良好	子どものヒアリングからも、自分の考えや意見を言えていることから、主体的な活動であったり、子どもの学校での活動Ⅱに対する責任感を感じることができた。
	後期	良好	子どもたちが悩みなく楽しく学校に通っていることがよく分かった。また、自主的・自発的な子どもたちの発言があり、大変成長していると感じる。挨拶や学校行事など、6年生のリーダーシップのもと全校が一体となって頑張っている。

改自善己策評価の概要と学校の

【前期(→後期)】 これまでは本校の挨拶運動の活動の大部分は、運営委員会の児童が担ってきた。しかし、児童数減少のため今年度から委員会を精選し数を減らしたので、挨拶運動は4～6年生で組織する「にこにこスマイル隊」の活動へと移行した。子ども達は前年度までの挨拶運動を受け継いで、ひじょうによく頑張ってくれている、児童の「挨拶」や「集団の一員としての活動」に対する評価のポイントも高い結果となった。また、保護者からの「自発的な活動」のポイントがアップした。その背景には、150周年記念運動会や各種行事を通して、委員会の仕事や自分の役割をしっかりと果たそうと頑張る児童の姿の評価の表れではないか、と感じている。

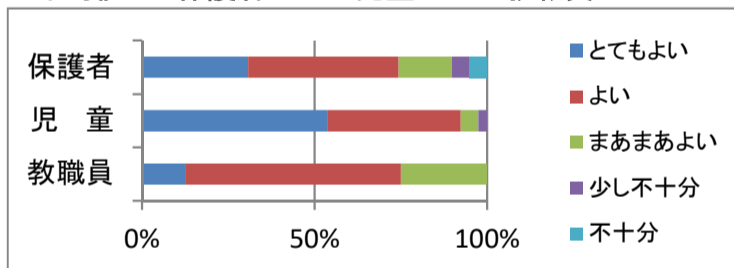
【後期(→次年度)】 児童の自己評価の数値は、「挨拶・言葉使い」「規律ある生活」「集団の一員としての自覚」のいずれにおいても4.3ポイント以上と高くなっている。人数減による活動方法の変更やダウンサイジングはあるものの、子ども達には自分たちができることを考え、やるべきことをしっかりと行っている自覚があると言える。150周年イベントでも、地域や保護者の方々に東小っ子の元気いっぱい頑張る姿をたくさん見ていただくことができた。今後は、委員会活動やにこにこスマイル隊の引き継ぎをしっかりと行い、本校のよさを次年度にうまくつないでいくことができるようにしたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1)生活習慣の定着	あいさつ運動の推進 時と場に応じた言葉使いの指導	4	4
	(2)規律ある落ち着いた生活	校内のルール・マナーの指導	4	4
2 自主的・実践的な態度	(3)自分の考えを生かした活動	係活動・委員会活動の推進	4	4
	(4)集団の一員としての活動	学級会活動・クラブ活動の推進	4	4

[評価指標1]

(1)元気なあいさつと正しい言葉遣い

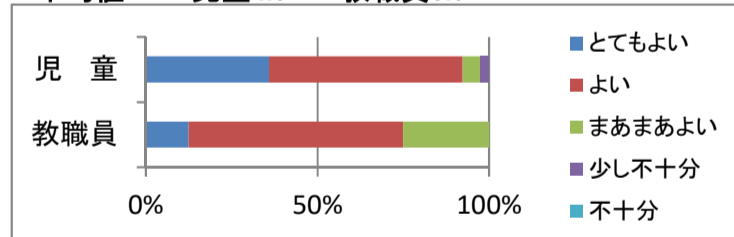
平均値 保護者3.9 児童4.4 教職員3.9



今年度から、あいさつ運動は4～6年生で組織する「にこにこスマイル隊」を中心に活動している。毎日のあいさつ運動は曜日ごとのグループが担当し、全校児童に元気なあいさつを呼びかけている。また、あいさつ玉入れ合戦やあいさつトレインなどの活動を展開し、本校のよさである元気で明るいあいさつに、楽しみながら取り組めるように工夫している。

(2)規律ある落ち着いた生活

平均値 児童4.3 教職員3.9

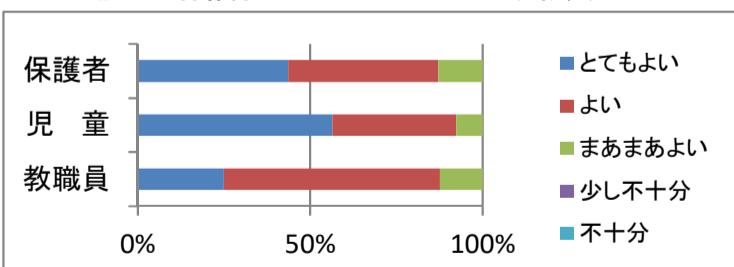


2学期中は体育館の使用やボールの使い方について指導が必要な場面が何度かあった。「みんなで使う物」についての意識は、今後も折に触れて指導を重ねる必要がある。冬季間は、玄関先での雪払いなど、日常生活でもお互いのことを考えて行動できるよう、声掛けや指導を継続していく。

[評価指標2]

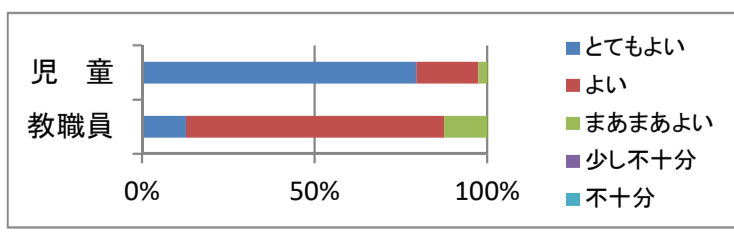
(3)自分の考えを生かした活動

平均値 保護者4.3 児童4.5 教職員4.1



(4)集団の一員としての活動

平均値 児童4.8 教職員4.0



本校は児童数は少ないが、それゆえ「一人一人の児童に大切な役割があり、活躍の場がある」と言える。委員会や学級の係活動に責任をもって真面目に取り組む児童の姿は、他校に自慢できる東小っ子のよさである。児童がこのことを自覚し、本校のよさとして次につないでいけるよう、3学期の児童総会や6年生を送る会での引き継ぎを充実したものにしていきたいと考えている。

ア 児童の状況

Ⅱ 思いやりの心 たくましい心

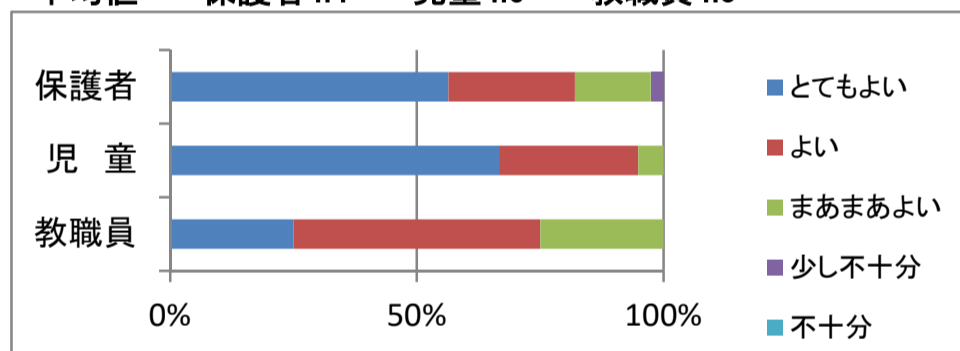
評価項目		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
互いを認め合い、高め合いながら、学校生活を送り、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	子どもも先生も人数が減少してきているが、学校アンケートの評価は、保護者、児童、教職員共に高い値となっている。
	後期	良好	きわめて良好	各指導部で設定した「縦割り班活動」が、相手を思いやり助け合ったりすることにつながっている。職員のヒヤリングからは、仲間が怪我した時に教えられる子どもがいて、優しい子どもに育っている。また、失敗した子どもに対してもそれを攻めない温かい子どもの様子があった。
善自策己評価の概要と学校の改	【前期(→後期)】	「思いやり」「自分を高めようとする意欲」「自己有用感」のすべての項目で、児童の評価は4.5以上と高い。各種行事や異学年交流が以前と同様にできるようになったことで、協力の場面が増えたことや友達のよさが見えやすくなっている。また、本校児童の長所として友達の頑張りを素直に認めることができる子が多い、という点も挙げられる。教職員からの「自分を高めようとする意欲」「自己有用感」の評価が0.5ポイントずつ下がった。他校に比べて、児童一人一人の役割や仕事が多くなってしまっており、児童が負担を感じることを心配する部分があるのではないか。		
	【後期(→次年度)】	児童の評価数値は前期に比べて若干下がりはしたものの、①「思いやり」、②「自分を高めようとする意欲」、③「自己有用感」の全ての項目で4.4以上と高い。各指導部で縦割り班活動を多く設定したことで、相手を思いやり助け合ったりすることにつながっているのだと思う。また前期と比べてみて、保護者は①4.4(+0.1)、②4.1(+0.1)、教職員は①4.0(+0.1)、②4.1(+0.6)、③4.4(+0.8)と評価が高くなっている。これは150周年の各種行事での子ども達の姿から、成長を感じ取ってもらえたのではないかと考える。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな心と向上心	(5)相手を思いやり助け合う心	特別の教科道德の充実 異学年交流	4	4
	(6)自分を高めようとする意欲	目標達成に向けた取組 一人一人の活躍と称揚の場の設定	4	4
4 集団生活・集団行動	(7)互いを認め合い自己有用感のもてる学級	互いのよさを認め合う場の設定	4	4

[評価指標3]

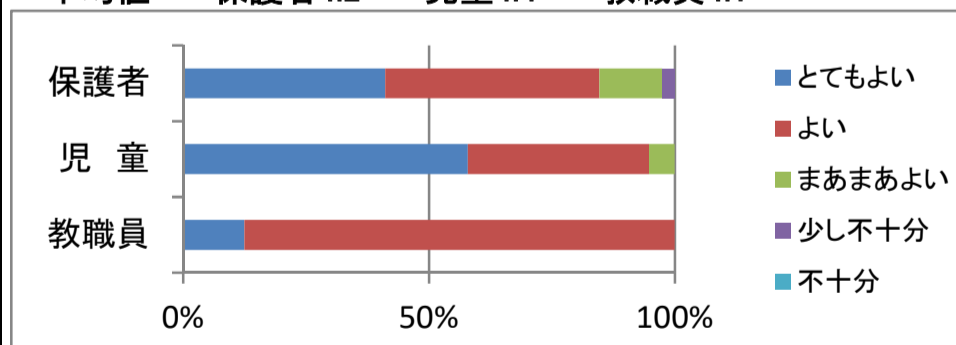
(5)相手を思いやり助け合う心

平均値 保護者4.4 児童4.6 教職員4.0



(6)自分を高めようとする意欲

平均値 保護者4.2 児童4.4 教職員4.1



今年、Head PJによる「とんぶりっこタイム」やHealth PJによるマラソン記録会後の縦割り班遊びなど、各指導部の取組の中でも縦割り班活動を多く取り入れることができた。また、1・2年生は幼保連携のスタートカリキュラムの一環として、生活科や各種行事で保育園児との交流も行った。上級生・下級生と一緒に活動することで、相手に対する思いやりの心や上級生としての心構えなど、たくさんの成果があったと感じている。

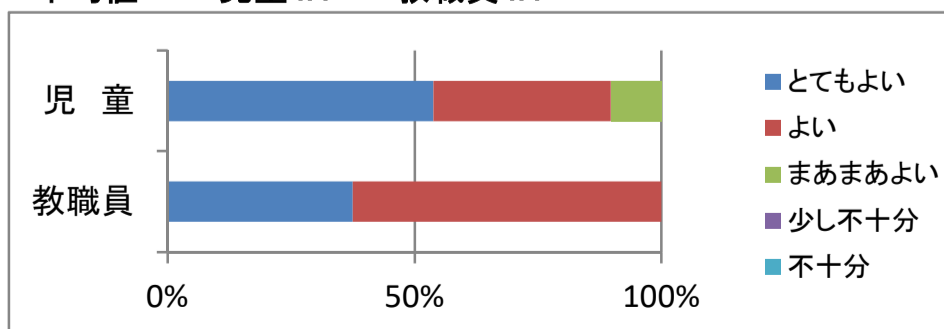
自分や友達のよさをたくさん発見できた「ハッピーツリー」運動



[評価指標4]

(7)互いを認め合い自己有用感のもてる学級

平均値 児童4.4 教職員4.4



9月～11月に、今年も「ハッピーツリー運動」を展開した。友達のよいところや頑張っているところを見つけてカードで紹介し合う活動であるが、全校給食の時間にお互いのメッセージ紹介もしている。こうした場や時間を設定したことが、友達や自分のよさ・頑張りの自覚につながったのではないかと考える。

ア 児童の状況

Ⅲ 健康と体力

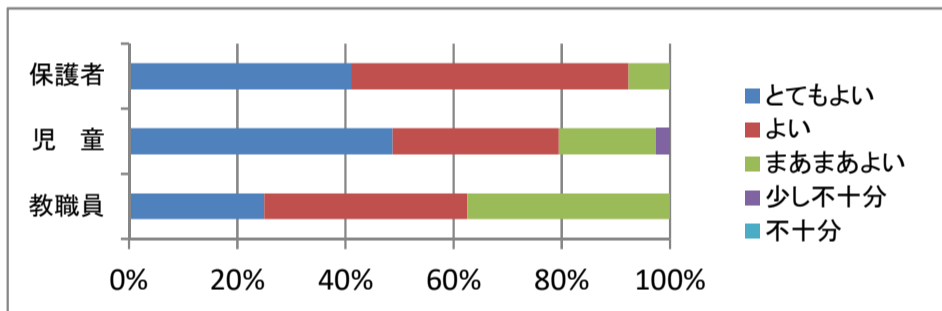
評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント	
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組もうとしている。	前期	良好	良好	残食する子どもが少し見られたが、よく食べていた。魚も工夫して調理されていた。栄養教諭との連携も図られている。給食は大変おいしかった。
	後期	良好	良好	児童のヒアリングからは「体育の授業が楽しい」や「昼休み(さいがわタイム)に外で遊ぶのが楽しい」という子どもの発言があり、これからも体力づくりの時間を大切にしてほしい。アンケート結果からメディア利用改善の必要性を感じた。家庭のルールを決めることやそれを守ることなどの指導を継続して行ってほしい。
改善自己評価の概要と学校の	【前期(→後期)】健康な生活習慣の定着では、「とんぶりっこタイム」でメディアについて自分たちで話し合ったことで、メディアに関する意識が向上したことが、数値が上がった要因と考えられる。望ましい食習慣の形成では、栄養教諭による食に関する授業の実施や、ランチルーム給食で苦手なものでも頑張って食べようとする児童が増えたことや、少しでもおかわりをしようとする児童が増えたことで、数値が上がった要因と考えられる。しかし、好き嫌いの多い児童もいるため、健康委員会や栄養教諭による、食育指導や食に関する取組を継続して行っていく。体力と運動能力の向上では、毎週水曜日を全校児童が体育館で遊ぶことができるようにしたことや、ボール遊びが可能になり、積極的に体を動かそうとする児童が増えたことが数値が上がった要因と考えられる。これからも、健康委員会活動を中心に体を動かす機会を設定し、全校で取り組んでいく。			
	【後期(→次年度)】健康な生活習慣の定着では、「寝る30分前ノーメディア」で子どもの評価が総合3.9点であった。3年生以上では、5点中3以下をつける人が増えていた。寝る前の過ごし方や良い睡眠の取り方等について保健指導を行っていく。望ましい食習慣の形成では、子どもの評価が総合4.6であったが、1点をつけた人が2人いた。苦手な物は一口でも食べてみることや、少量でも自分で食べきれぬ量を盛り、完食を目指すことができるような指導を行っていく。体力と運動能力の向上では、休み時間に外で雪遊びや体育館遊び、ミーティングホールで縄跳びをする子どもが多い。これからも熊に気を付けたり、マナーを守ったりと、積極的に体を動かす機会を増やしていく。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 保健・食育の状況	(8)健康な生活習慣の定着	保健指導の充実 家庭への啓発活動 健康な生活習慣アンケート	4	4
	(9)望ましい食習慣の形成	給食指導を通じた食育 家庭への啓発活動 栄養教諭との連携	4	4
6 体力づくり	(10)体力と運動能力の向上	体育の授業の充実 体力テストの活用 外遊びや運動の奨励 体育環境づくりと整備	4	4

[評価指標5]

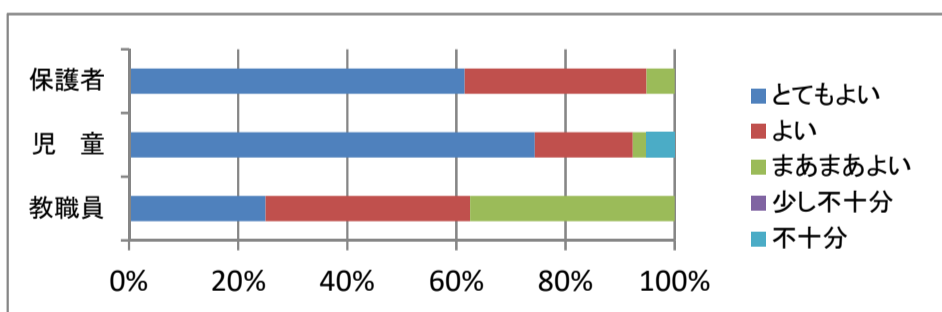
(8)健康な生活習慣の定着

平均値 保護者4.3 児童4.3 教職員3.9



(9)望ましい食習慣の形成

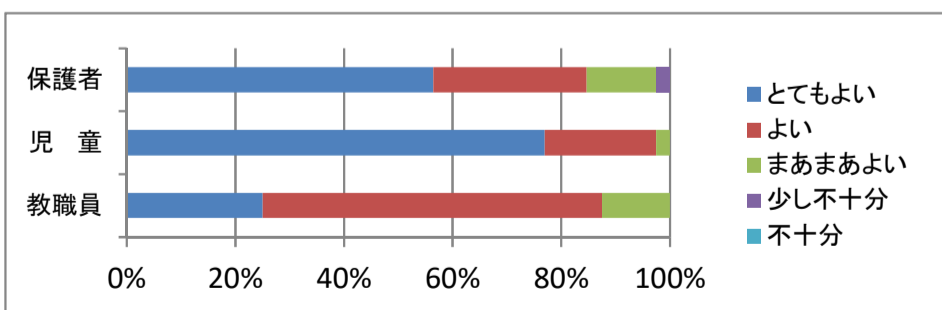
平均値 保護者4.6 児童4.6 教職員3.9



[評価指標6]

(10)体力と運動能力の向上

平均値 保護者4.4 児童4.7 教職員4.1



手洗い指導(9月・1月)

6月頃から、各学級の都合の良い時間に合わせて、1校時、手洗い指導を実施した。
2・3学期は、9月に6年生、1月に2・3年生を対象に実施した。
手洗いの大切さについて確認した後、ブラックライトを用いて洗い残しを確認した。その後、音楽にあわせて、正しい手洗いの方法について実践した。



鶏めし給食(1月)

1月29日(水)に花善の鶏めし給食を実施した。
今年は、花善の職員による対面での講話を給食時間に実施し、鶏めし給食の歴史や誕生秘話について語っていただいた。
これからも、講話の機会を設け、大館市の良さや有名な食材について知ることができるようにしていく。



マラソン記録会(10月)

事前に、自分の目標タイムを定め、本番に目標を達成できるように体育で練習をした。
本番では、誰一人途中で棄権することがなく、自分の目標タイムを超えることができるように一生懸命に走りぬいた。
これからも、委員会等を活用し、体を動かす機会を作っていく。



ア 児童の状況

IV 基礎学力

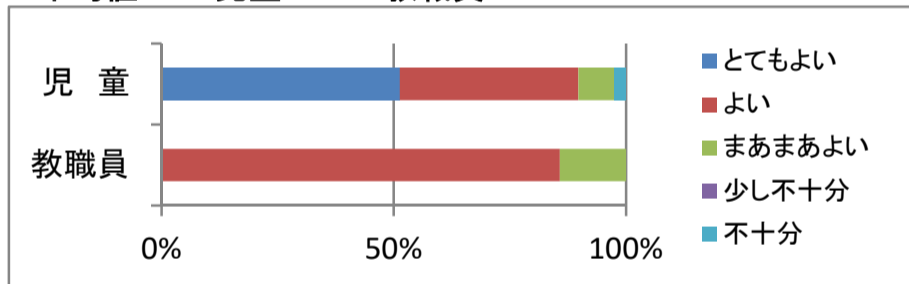
児童生徒の状況		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組む、学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	全体的にはよいと思う。複式学級の子どもが少し心配であるため、複式学級の指導がいき届くように、学習支援員やもう1人教員の配置することが望ましいと思う。
	後期	良好	良好	学力に関して、県学習状況調査等の結果が県平均を上回っていることから基礎学力の定着が図られているように感じる。今回、授業参観を通して、子どもたちが自分の考えをしっかりと発言することができ、意欲的に学習に臨む姿が見られた。
策 自己評価の概要と学校の改善	【前期(→後期)】 全て項目において子どもや保護者からの評価が昨年度より上がっている。保護者には、PTAでの授業や行事等を通して成長を感じてもらえる機会が多くあったことが考えられる。子どもは、振り返りやノート展など自分の成長を感じる場面を取り入れていることが考えられる。一方、教職員の評価が下がっていた。その要因として、(11)は、児童の実態から学習習慣を定着するのに時間がかかっていることが考えられる。(13)に関しては、学習習慣が定着しておらずその段階にいけないことが考えられる。また複式学級が増え、多くの先生の負担が多くなり学び合いの工夫の確保などに苦戦していると考えられる。基本的学習習慣を定着できるように、東小っ子の約束チェックシートを活用し、継続的に指導していきたい。(12)(14)は前学期は取り組めておらず、12月の秋田県学習状況調査やCRTのテストに向けて時間を確保し、類似問題に取り組んでいきたい。			
	【前期(→後期)】 全ての項目において、子どもや保護者から前学期と同等の評価をいただいた。保護者には、授業参観や行事、県の学力テストの結果を通して成長を感じてもらえたと考えられる。子どもは、ノート展や学力テストの結果から自分の成長を感じられる場面が多かったことが考えられる。また、教職員の評価は上昇した。その要因として、前学期からの継続した指導により子ども達が少しずつ力を発揮したことが考えられる。(14)は、前学期は行うことができなかったが、短い期間でパワーアップを行ったことが評価されたと考えられる。次年度も、比内地区の共通実践課題である反応ワードに取り組み、9年間を見据えた実践を行いたい。また、ICTの活用は、今後も継続して取り組んでいきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 学習への取組	(11) 基本的学習習慣の定着	聞き方・話し方指導の徹底 「学習の7か条」の徹底 ハンドサインの活用 ノートの使い方指導 家庭学習の励行	4	4
	(12) 基礎学力の定着	学習が定着する授業の構築 パワーアップタイム 東小っ子テスト	4	4
	(13) 主体的な学習態度	学び合いの場の確保 学習課題の吟味 指導方法の工夫	4	4
8 諸検査の状況	(14) 学習状況調査・学力検査等の結果の改善	実態把握と課題分析 回復指導の実施	3	3

[評価指標7]

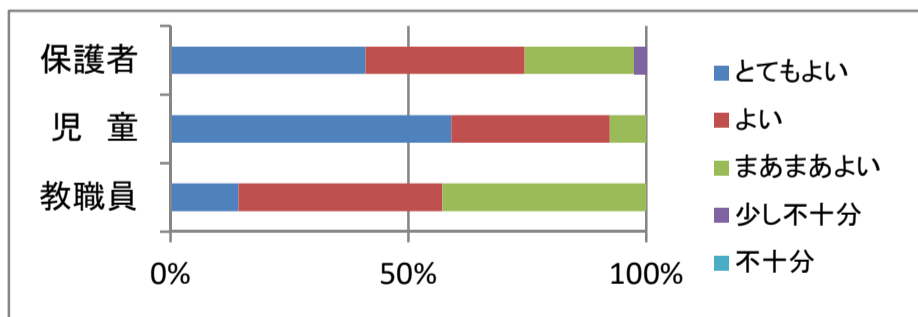
(11) 基本的学習習慣の定着

平均値 児童4.4 教職員3.9



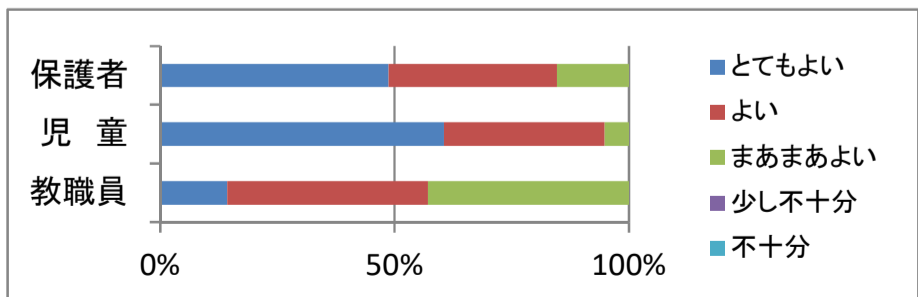
(12) 基礎学力の定着

平均値 保護者4.1 児童4.5 教職員3.7



(13) 主体的な学習態度

平均値 保護者4.3 児童4.6 教職員3.7



比内地区共通実践課題 反応ワード

小・中9年間を見据えて比内地区の共通実践事項である反応ワードの充実を図った。子ども達と一緒に考え、各学年で取り組んできた。また、後学期には新しいワードを増やすなど学び合う集団の育成を行った。



日々の授業や研究授業等を通じた 児童の育成と授業改善

学習リーダーを中心として学び合いを進められるように指導・支援してきた。低学年では司会(進行役)したり、高学年では司会(進行役)と補助(板書役)のペアで実施したりと、発達段階に応じて形態を工夫しながら取り組んでいる。また、導入や話し合い活動では、ICTや思考ツールを活用した授業実践にも取り組んでいる。



基礎学力の定着

基礎学力の定着を図るために、調査前のパワーアップでは学習状況調査の過去問に取り組み、少人数グループに分かれて学習することで、一人一人の学びに寄り添えるようにした。調査後は、分析をして各学級や個々の指導にあたった。また、全校でとんぶりっ子タイムを行い、一人勉強について話し合い、日々の家庭学習のパワーアップにも取り組んでいる。



ア 児童の状況

V 組織運営

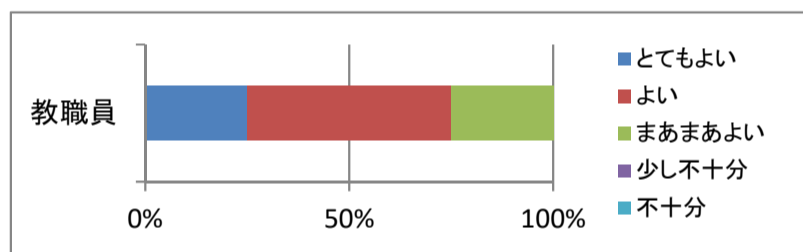
児童生徒の状況		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
重点目標の具現化に向けて、特色ある学校づくりが、計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	職員数の削減、ふるさとキャリア教育等、昨年以上に先生方への負担が大きいため、あまり無理のないように継続できるようにお願いしたい。
	年度	良好	良好	2つの複式学級があるが、工夫しながら授業が行われており、全職員で協力しながら子どもたちのために取り組んでいることが感じられる。ただし、複式学級での指導には困難な面が多くあり、今後、教科指導ができる教育支援員の配置・増員を強く要望したい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期(→後期)】全ての項目において、昨年度前期の評価を下回った。その要因として、職員1名減による教職員一人当たりの負担が増加したことや、複式学級が2つになり様々な課題が顕著になったことが考えられる。「目指す子どもの姿」を全職員で共通理解し、先々を見通して準備を進め、現在の子どもたちの姿から必要と思われる施策を提案し取り組んできた。その結果、あいさつの向上やメディアの上手な使い方を考えるなど、子どもたちに変容が見られたが、教職員の負担は大きいと思われる。今後は、学校行事やキャリア教育等の計画の見直しを図り、内容の精選や取捨選択、規模縮小など、意識を変えていく必要があると考える。授業改善と指導力の向上については、これからの様々な研修の機会を活用して授業の改善と指導力の向上に努めたい。</p> <p>【後期(→次年度)】後期は全ての項目において前期の評価を上回る結果となった。これは、各行事やふるさとキャリア教育、総合的な学習の時間などの実施に向け、教職員全員で子どもたちにとって必要な施策を検討し、意見を出し合い協力して取り組んだ結果と考えられる。2複になったことを受け、学習を効果的・効率的に進めるために合同授業を行ったり、教科担任が授業を受け持つなどの手立てを講じたが、教職員の負担は大きい。子どもたちに確かな学力を付け、なおかつ教職員の負担を少しでも軽減できるよう、今年度出された課題や反省を来年度の計画に活かしたい。教職員の研修については、各研究会への積極的な参加は職員の構成上難しいため、校内での情報交換を積極的に行い、限られた研修の機会を最大限に生かす工夫をしていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 教職員の学校運営参画	(15)経営方針や重点目標・施策の共通理解	実態把握による重点施策(東館3つのH)の設定と明示	3	4
	(16)各指導部の運営と実践	「東館3つのH」の施策の提案 組織的な取組の実践	3	4
10 教育課程の編成と実施	(17)特色ある教育課程	ふるさとキャリア教育の推進 円滑な教育課程の実施	3	4
11 職員研修	(18)授業改善と指導力の向上	研究テーマに基づいた授業実践 授業研究会の充実 各種研修会への参加	3	4

【評価指標9】

(15)経営方針や重点目標・施策の共通理解

平均値 教職員4.0



☆「東館3つのH」の施策の提案・実践

9月 につこりサンキューでハッピースマイル！(H&H・P)

・みんなのためによい行いをした友達や、一生懸命がんばっている友達を全校で紹介する活動を行い、ハート型のカードに記入して掲示した。給食の時間に紹介し、意欲付けを図った。自分の学級のことだけでなく、他学年についても紹介するなど、たくさんの人のよいところやがんばりに目を向けるよい機会となった。



10月 目標を決めて健康な体作りをしよう(H&H・P)

・健康な体作りのために必要なことを全校朝会で伝え、自分で気をつけたいこと(手洗い・うがい・消毒・早寝早起き・好き嫌いをなくす・運動をする等)を考え、主体的に取り組めるようにした。自分の健康は自分で守るという意識付けに繋がった。
・マラソン記録会に向け、記録カードを活用し目標タイムを設定させ、練習に取り組ませた。子どもたちは目標達成をめざして、積極的に練習に取り組むことができた。

11月 自分の力をパワーアップ！(Head・P)

12月 自分にチャレンジ(Head・P)

・縦割り班ごとに集まって、家庭学習について考える機会を設けた。自分のためになる、学年に応じた内容になるように、全校でポイントを確認した。他の学年のノートを見せてもらったことで、意欲が高まった。
・県学習状況調査やCRT検査に向け、これまでの学習の復習に取り組んだ。過去の回答で間違いの多かった問題や学級全体で落ち込んでいる内容を中心に復習したことで、子供たちの理解が深まった。今後は検査結果を分析し、進級までの間にしっかりと力を付けたい。



1・2月 自分の生活についてふり返り、健康力をアップさせよう！(Heart&Health・P)

・自分の健康を高めるために、自分でがんばりたいことを考えさせた。

☆各学年のふるさとキャリア教育

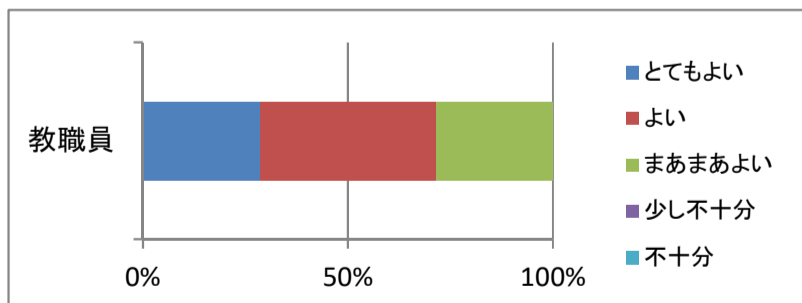
- 全校：とんぶり活動(草取り、収穫、販売)
 1年：比内図書館見学 さつまいもdeクッキング
 2年：比内図書館見学 さつまいもdeクッキング
 3年：お仕事調査隊 とんぶり加工場見学
 4年：お仕事調査隊
 5年：お仕事調査隊
 6年：お仕事調査隊
 発見！発信！ハッピー！In 比内 for 未来



【評価指標10】

(17)特色ある教育課程

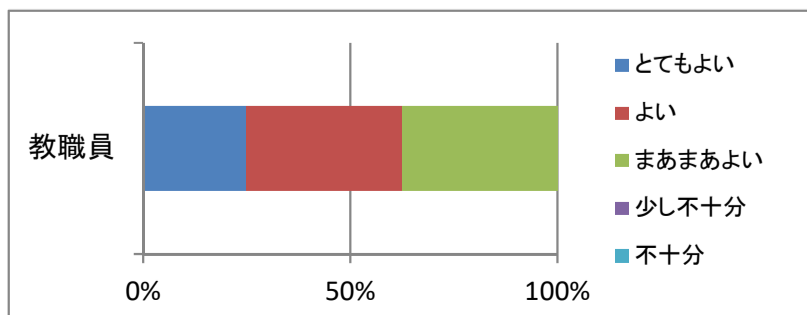
平均値 教職員4.0



【評価指標11】

(18)授業改善と指導力の向上

平均値 教職員3.9



ア 児童の状況

VI 保護者・地域との連携

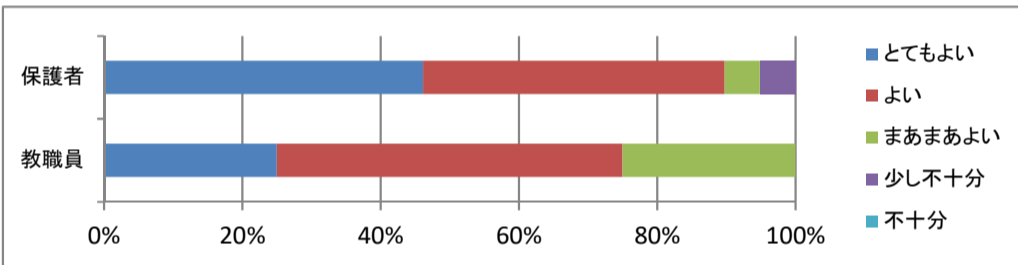
評価項目		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
学校の取り組みが分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	学校と地域の連携を強くしたいと考え、「東大三学部」は150周年記念の協力体制のために立ち上げた。運動会は、地域の協力を受けて、少ない予算で成果を上げることができた。これから実施する、心のかけ橋フェスティバルは、どのように行うのかを検討してほしい。
	後期	良好	良好	「心のかけ橋フェスティバル」は、地域の方々との交流を深められる貴重な学校行事である。今後、祖父母の参加はもちろん、保護者の参加も可能にすることで更に連携や協力を強めることができると考えられる。また、「とんぶりの活動」等についても地域の方々に協力を求め、学校運営協議会としても協力することで更に良好にしていきたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→後期)】 (19)今年度は150周年ということから、教育活動や子どもの活躍を、毎月の学校報にたくさん掲載してもらい、それを楽しみに見ている保護者や地域の方が多いと、大変喜んでくれている。また、各行事を事前にブログで紹介することで広報活動につながり、それを見た地域の方が活動に協力してくれるというように、地域とのつながりが高まったことも要因である。 (20)校長先生が、毎朝校門で子どもたちを迎え入れてくれていることが、保護者として強い安心感へと繋がっている。また、先生方から子どもたちや保護者への丁寧な対応が、保護者としても先生方に困っていることを相談しやすい関係ができていたため、継続していきたい。今後は、児童数や教職員の減少を考えて、諸活動の内容を検討し、活動を縮小するなどの見直しが必要である。 (21)運動会では神成後援会長さんが、「東大三学部」を立ち上げ、地域と一緒に活動することができた。また、PTA活動として「合同親子レクリエーション」を企画し、「防災キャンプ」として初めて開催した。このように地域や関係機関と連携してできたことは大きな成果と捉え、今後に繋げていきたい。			
	【後期(→次年度)】 (19)子ども達の活動の様子が、新聞やニュースなどで報道される機会が多くあった。それが学校区だけでなく、それ以外の多くの方に「東館小学校」を知ってもらうことになった。また、毎月の学校報、各学年だより、ブログにも掲載してもらい、保護者や地域の方に楽しんでもらうこともできた。 (20)第1回学校運営協議会から、「少人数校であるが、それを感じさせない子ども達に育っている。」という評価をいただいている。また、各行事に参加してもらいながら、直接子ども達とふれ合い、元気で明るい姿を見ることができた。これからもPTA、地域の方から情報をもらいながら、各活動が実施できるようにしていきたい。 (21)2学期は、とんぶりの収穫、学習発表会、心のかけ橋フェスティバルと大きな行事があった。特に学習発表会と心のかけ橋フェスティバルには、地域の方々を招いて、盛大に開催することができた。また、心のかけ橋フェスティバルでは、祖父母の方以外にも保護者、地域の方が手伝ってくれて、昨年以上に活気ある雰囲気であった。そこに、ふかわりょうさんも参加して、一緒にだまご鍋を食べて地域の方とふれ合い、とんぶりの歌をピアノの生演奏で児童が歌い披露した。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
12 情報の受発信	(19)学校の様子が伝わる情報発信	魅力ある学校報・学年通信・ホームページ・ブログ等による情報の発信	4	4
	(20)保護者・地域からの情報収集	PTA諸会合 家庭訪問 個人面談 保護者アンケート 学校運営協議会等の開催	3	3
13 地域の教育力の活用	(21)地域素材や人材の効果的な活用	地域学習材の活用 体験学習の推進 授業や諸活動でのゲストティーチャーの活用	4	4

【評価指標12】

(19)学校の様子が伝わる情報発信

平均値 保護者4.3 教職員4.0

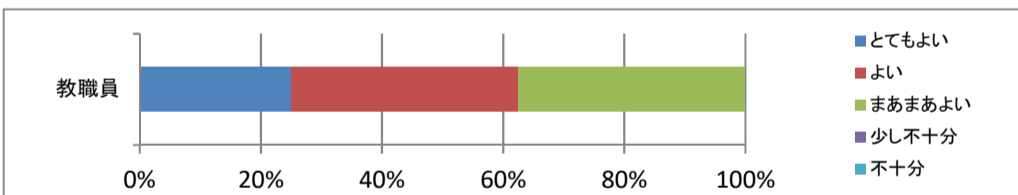


【学校の様子が伝わる情報発信等】

- ①毎月末発行の学校報「犀川」の学区全戸配布とHP掲載
- ②隔週発行の各学級の「学級だより」
- ③地域コーディネーターのブログを活用して、学校行事の予定やその時の様子を紹介している。
- ④新聞記事掲載やテレビ放映での紹介
 - ・150周年記念学習発表会 ・とんぶり収穫 ・キッズマート
 - ・150周年記念心のかけ橋フェスティバル
- ⑤児童の活躍を職員室前廊下に掲示し、来校した保護者やお客さんへ紹介できるようにしている。

(20)保護者・地域からの情報収集

平均値 教職員3.9



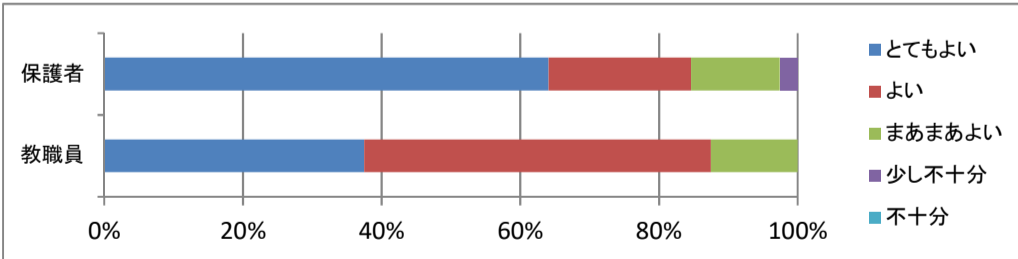
【保護者や地域の方との情報交換】

- ①心のかけ橋フェスティバル(祖父母の方との交流会)
だまご鍋を作りと会食を通して、地域の方との交流や、日頃の感謝の気持ちを伝えて親睦を深めた。ふかわりょうさんの特別参加。
- ②2学期末PTAの授業参観で子どもの成長を保護者に伝える機会とした。1～3年生は親子で調理体験をしてふれ合う機会となった。学級懇談では、学校や家庭の子ども様子について情報を交換した。
- ③子どもサミットに参加した代表児童が、他校生との交流から各校の取組について情報交換することができた。

【評価指標13】

(21)地域素材や人材の効果的な活用

平均値 保護者4.5 教職員4.3



【地域素材や人材の効果的な活用】

- 《生活科》
1・2年生の遠足で、ペニヤマ自然パークでの体験活動。
- 《特色ある教育活動》(総合的な学習の時間等)
- ①1～3年生
3年生と桂桜高校生で考えたとんぶりレシピを、2学期末PTAで保護者と一緒に楽しんで作り、親子で美味しい料理を味わうことができた。
 - ②3～5年生
とんぶり広め隊「キッズマート」の活動として、生産者の本間均さんから提供してもらったとんぶりを、「道の駅ひない」で保護者の方の協力を得ながら、4年生が経験のある5年生に手伝ってもらい販売した。3年生の宣伝効果もあり、準備した720袋を全て完売した。教育委員会にも出向き販売することができた。
 - ③4・5年生
運動会に向けて、独鈷ばやし保存会の神成幸忠さんから指導を受け、伝統芸能「独鈷ばやし」の継承に取り組んだ。
 - ④4～6年生
椎茸栽培を、旧大葛小学校から引き継ぎ、地域の方を講師に行っている。収穫した椎茸は、家にお土産で持ち帰ったり、心のかけ橋フェスティバルのだまご鍋の食材に使ったり、家族や地域の方に味わってもらった。
 - ⑤6年生
大館税務署2名の方を講師に、「租税教室」を開催した。また、曲げわっぱ弁当箱作りに挑戦し、大館市の伝統工芸に触れることができた。
 - ⑥3～6年生
お仕事調査隊で、自衛官、警察官、美容師、獣医の方の話を聞いて、いろいろな職業があることを知り、将来について考える機会になった。

曲げわっぱ弁当制作体



とんぶり収穫活動



キッズマート



150周年 学習発表会



心のかけ橋フェスティバル

